

Bチャレ   チャレンジ部門   実績報告書

団体名	ペット防災マイスター		作成日	3月30日
企画名	災害時、大切な家族であるペットを守るために			
あなたが考える 文京区の課題	<p>文京区では、災害時避難所が開設された場合に、ペットと同行避難した方を受け入れます。とありますが、実際に同行避難をした場合、どのような準備がなされているのか、実際に受け入れてもらえるのか、飼い主たちは色々と不安を感じています。</p> <p>具体的な不安として①近隣の犬の散歩時に会う方々、猫を飼っていると話しされている方々の人数を考えると、耳にする避難所に置かれているゲージの個数が足りない。同行避難にはゲージを持って行く事とされてますが、状況によっては持ち出せない場合もある。②近隣で犬の散歩をしていても、明らかに犬・猫を嫌っていると感じられる方や家などもあり、災害時と言う非常事態の時には特に神経質になり、同行避難しても断られてしまう可能性がある。③同行避難を受け入れられたとしても、ゲージを持参出来なかった時、1つのゲージに複数頭入れられた場合、咬傷のトラブルが起こる可能性が大きい。④複数頭ゲージに入れられた場合、犬達がストレスで鳴き声がひどくなり、周りの方々に迷惑をかけてしまう。などがあります。</p> <p>このような不安の声を聞きますが、文京区としてそれに対する取り組みがなされていません。例えば、令和4年度末の文京区の犬の頭数は6,568頭(東京都保健医療局より)ですが、文京区の避難所に置かれているゲージの数は、中大型犬用のサークルのみ、各避難所に5個、計165個となっています。</p> <p>ペットを飼っている方々には、災害時、在宅避難が望ましいと思われそうですが、地震による家屋の倒壊や火災・水害・崖崩れなど様々な災害で、避難所に行く方も多いと思います。その場合、同行避難をした時の心配や不安を抱えるペット飼育者も多いです。その不安を解消し、大切な家族であるペットを安全に避難させる為の企画を行いたいと考えています。</p>			
実施期間	2024年6月～2025年2月	実施場所	文京区の施設・店舗など（汐見地域活動センター・シビックスセンタースカイホール・アレック・養源寺 他）	
対象者	文京区内に住んでいる、ペット（動物全般）を飼っている方・ペット災害に興味がある方（以前ペットを飼っていた、これからペットを飼う事を考えている方など）			

<b>参加者の募集方法</b>	イベント参加募集のポスター、チラシ を制作する・ペット防災マイスターのホームページ・Instagram・Facebook。どっとフミコムイベント情報の掲載。チラシ⇒各町会の掲示板に貼って頂けるように依頼する。会員がチラシを知人に渡したり、犬の散歩をしている方などに配布する。なないろ動物病院・ペット関連店舗ミュー&マッティーナ・保護団体（ぶんねこ、GOGO groomers他）・近隣店舗 くまかふえ・モンテビアンコ・地域の居場所 ふらっと団子坂などペット関連だけでなく、地域に密着している店舗などにも置いて頂く。
<b>実施した事業内容</b>	<p>① 9/7 愛犬・愛猫の防災セミナー：ペットオーナーの防災の知識を深める為の当会の佐々木顧問による防災セミナー。会員オフィシャルライン、Instagram、ホームページで告知（汐見地域活動センター/参加者14名）</p> <p>②10/10 災害時のためのマナートレーニング：災害時に必要になる呼び戻しトレーニング、クレートトレーニングを行う。トレーナーは、当会の佐々木顧問。会員オフィシャルライン、Instagram、ホームページで告知。（アレック/参加者ペット同伴3組）</p> <p>③11/12 災害時のためのマナートレーニング：災害時に必要になる呼び戻しトレーニング、クレートトレーニングを行う。トレーナーは、当会の佐々木顧問。会員オフィシャルラインをはじめ、口コミ等で告知。（養源寺/参加者ペット同伴2組）</p> <p>④1/20 同行避難訓練：2月に行う同行避難訓練の予行練習、受付に必要な物などの確認、持参した荷物の確認、クレートトレーニングを行う。初めての開催のため、運営側の動きの確認などのため小規模の募集とし、会員オフィシャルラインで告知。（アレック/参加者ペット同伴2組）</p> <p>⑤1/25 ペット防災セミナー：ペット災害危機管理士である鈴木清隆氏を講師にお招きして、ペットオーナーの災害に備えての心構え、日頃からどんな事をするべきなのか等のお話しをして頂く。又、参加者の参考になるように、ペットの防災グッズの展示や避難所で使用する数種のケージ、クレートを展示した。どっとフミコム、会員オフィシャルライン、Instagram、ホームページで告知（文京シビックセンタースカイホール/88名）鈴木氏の防災セミナーは、多くの方にいらして頂きたい為、駒込地区以外（千石、白山、小石川など）の動物病院・ペット関連店舗などにもチラシを置いて頂けるように広範囲に依頼をしにいった。</p> <p>⑥2/17 同行避難訓練：養源寺さんの敷地の一部をお借りして、同行避難訓練と避難所開設訓練を行う。又、敷地の一部に障害物を置いて歩きにくい状況を作りペットと歩いてもらった。数種類のクレート、ケージを置き、実際に入ってもらった。会員オフィシャルライン、Instagram、ホームページで告知。1/25のセミナーに参加していただいた方にチラシを配布。（養源寺/参加者ペット同伴9組）</p> <p>⑥9/28・11/30 養源寺マルシェ出店：ペット防災マイスターのブースで活動継続のための資金調達を实践するため会員の手作り品や不要になったペット用品の販売を試みると共に、ペット防災や同行避難、災害時に必要になるトレーニングなどの啓発活動をした。</p>

事業実施に当たって実際に協力のあった団体・個人	特定非営利活動法人ペット災害危機管理士会、なないろ動物病院、Mu&mattina（ペット用品店）、養源寺、全国動物避難所協会、ぶんねこ（保護団体）、くまカフェ（近隣店舗）、ふらっと団子坂（地域の居場所）		
収入内訳 《結果》	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	Bチャレ助成金	200,000	
	セミナー参加費(顧問)防災セミナー	7,000	500円×14名 (9/7)
	セミナー参加費(顧問)マナートレーニング	5,000	3,000円(9/30)・2,000円(11/20)
	養源寺マルシェ売上	39,570	9/28・11/30
支出内訳 《結果》	品目	金額	備考 (件数、単価などを詳しく記載)
	避難所開設訓練費用	24,388	見本用ケージ5,534円 囲い用ネット8,854円 養源寺使用料10,000円
	セミナー講師代(交通費含む)	37,360	講師料35,360円 シビック駐車料2,000円
	セミナー会場代	12,600	スカイホール使用料12,400円 ホール備品200円
	配布物制作費	12,880	セミナーチラシ4,770円 災害に役立つトレーニングチラシ4,480円 同行避難チラシ3,630円
	成果物としてのリーフレット作成費	63,550	A4三つ折りリーフレット
	消耗品費	27,300	養生テープ他732円 コピー代2,240円 プリンターインク代5,580円 プリンター用紙3,276円 セミナー時水分1,238円 ポリ袋418円 穴あけパンチ748円 配布用ウンチ袋13,068円
	養源寺マルシェ出店費用	23,248	9/28出店料5,800円 11/30出店料4,000円 テント重り4,580円 ディスプレ台3,069円 3,599円 出店品材料費2,200円
	団体運営費	50,244	※助成金対象外
助成交付額/支出総額	200,000/251,570		

## 企画の成果

- 1.当初想定していた成果に対して、達成度合い：10点中9点
- ・ペット同士のトラブルを防ぐ為、ペットの避難所を増やす事を目的として、幾つかの候補をあげていたが考えていたより交渉に難航した  
⇒減点理由。同行避難先との関係性を築くのには一朝一夕ではいけない事が分かった。引き続き交渉をしていく事が必要。
  - ・同行避難訓練、避難所開設訓練を行う。避難所開設の準備は受け入れ側の体制を事前に打合せをし、同行避難をしに来た方々がスムーズに手続きが出来るように、受付表の作成、案内の表示等を作成した。又、数種類のクレート、ケージを置くことで参加して頂いた方に実際に犬を入れてもらい、適正なサイズを確認してもらい、クレート及びクレートトレーニングの必要性を説明できた。ペットを連れて1人で持てる避難用品の点検を行えた。
  - ・災害時に必要なトレーニング(呼び戻し及びクレートに入れるトレーニング)を行なった。同行避難をした場合避難所を利用されている他の方々に迷惑をかけないようにする為、日頃から練習をしておく事の必要性を飼い主の方にも理解してもらえた。
  - ・ペット災害危機管理士の方を講師にお招きし、大きい会場で「ペット防災セミナー」を開催する事で、多くの受講者にペットの防災について、同行避難についての知識を深めてもらえた。専門の方の話を聞くことで、受講者により強く防災の必要性、日頃のトレーニングの大切さを知ってもらえた。
  - ・ペット防災セミナー開催・マナートレーニング・同行避難訓練・避難所開設訓練・養源寺マルシェの出店での啓発活動を通して、活動内容をまとめ今回の企画の成果としてリーフレットの作成が出来た。このリーフレットを配布する事でより多くの方にペット同行避難について認識して頂き災害時の共助に備える事ができると考えられる
- 2.企画を行ってみて気付いた事、改めて確認できた事
- ・一般社団法人日本動物専門教育協会ペット災害危機管理士統括責任者の鈴木清隆氏を招いてペット防災セミナーを開催して、ペットと同行避難するためには餌・水だけ準備していれば良い訳ではなく、ペット情報カードや折り畳みクレートなども事前準備が必要だと再認識した
  - ・同行避難訓練を通して、周りの避難者の方にもペットにもストレスをかけない為に、日頃からのクレートトレーニングの重要性を再認識した
  - ・マルシェで啓発活動をして、同行避難の認知度の低さや、避難のための準備をしている人の少なさを知り、周知の必要性を痛感した
  - ・文京区立汐見小学校で行われた避難所運営訓練への参加で、文京区ではペット同行避難に関するマニュアルが作成されていない事に気付いたので、マニュアルを作成する必要性を感じた

3.本企画の開始時に設定した課題は、実際に“文京区の課題”だったことが確認できましたか

回答：はい

実際に汐見小学校避難所運営訓練にブースを出したり、汐見地区防災士連絡会に出席して避難所開設の現状を聞くと、同行避難をしたとしても、文京区の指定避難所33ヶ所にはペットの避難場所は決められおらず、大きなサークル（重さもあり、組み立てにも時間が必要）が用意されているだけであり、同行避難のマニュアルもないことが確認できた。

ペット防災マイスターのチラシを見たり、養源寺マルシェにいらした方やペット災害危機管理士 鈴木氏のセミナーのアンケートでも同行避難に対する不安が多かった(具体的な不安として・避難所の情報が少ない・近隣のペットを飼っている人数を考えても避難所に置かれているケージの個数が足りない・同行避難にはクレートを持って行く事とされるが、状況によっては持ち出せない場合もあるがどうすればいいのか・近隣で犬の散歩をしても、明らかに犬・猫を嫌っていると感じられる方や家などもあり、災害時と言う非常事態の時には特に神経質になり、同行避難しても断られてしまう可能性があるのではないか・同行避難を受け入れられたとしても、クレートを持参出来なかった時、1つのケージに複数頭入れられた場合、咬傷のトラブルが起こる可能性が大きい・複数頭ケージに入れられた場合、犬達がストレスで鳴き声がひどくなり、周りの方々に迷惑をかけてしまう、などがありました)

4.本企画を経て、今後の団体の活動の展望

同行避難をした場合、周囲の方に迷惑をかけたり、他の犬や動物嫌いの方と問題にならないように、今後も災害時に役立つマナートレーニングを開催していき、トレーニングの必要性をより多くのペットオーナーに理解してもらえるように啓発活動をしていく。

同行避難訓練、避難所の開設訓練を開催していく。

そして、全てのペットオーナーに避難場所を使用する自分のペットに適したサイズのケージやクレートを用意してもらう。

文京区の指定避難所内に同行避難をした場合のペットの避難場所についてそれぞれの避難所で検討してもらえよう、団体から働きかけられる体制を整えていく。ペットの避難所の開設に必要な同行避難マニュアルを作成して、文京区の指定避難所の開設キットに加えてもらえよう働きかけていく。

※追加別添 1：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ

※追加別添 2：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

※追加別添 3：この事業にかかった費用の根拠資料の原本（領収書や支払い明細書など）

【提出先】

E-mail：fumikomu@bunsyakyō.or.jp

TEL：03-3812-3044（担当：近藤）